

## <フィリピン・マニラ路上事業> 「そこに暮らす子どもたちとともに、一つ一つ課題を解決していく路上での活動」



ICAN マニラ事務所  
松本亜祐実  
～プロフィール～  
立命館アジア太平洋  
大学にて開発学を専  
攻。ノルウェーへ留  
学後、現在は休学し、  
2019年3月より ICAN  
マニラ事務所にてイ  
ンターン

マニラ首都圏北部に位置する墓地に住み、路上で物乞いや仕事をしている 33 名の子どもたちに対して、今月、路上教育を行いました。活動の中で、環境や衛生に関する紙芝居を行った際、子どもたちは耳を澄ませて話を聞き、質問を投げかけると元気に答える等、積極的に参加してくれていたのが印象的でした。「路上教育 (Street Education)」とは、路上の子どもたちに、モラル形成やキャリア教育、そして薬物の危険性や感染症の予防法等の内容を含んだ保健衛生教育を提供するもので、危険と隣合わせで生きる路上の子どもたちが少しでも安全に暮らすことができるようになることを目指しています。

この路上教育は、アイキャンにとって、とても歴史のある活動です。アイキャンは、2008 年から 2015 年までマニラ首都圏各地の路上において、年 200 名を超える路上の子どもたちに対して路上教育を行っており、多くの子どもたちが、そこから育っていきました。2016 年から 2018 年は、当時の路上教育活動地の中から、特に路上の子どもたちが多く住むマニラ市の地域に、「ドロップインセンター」と呼ばれる活動拠点をつくり、教育や栄養改善等の活動を集中的に行ってきました。アイキャンは、路上の子どもたちの状況を根本的に改善していくために、現在様々な見直しを行っており、その一環として、マニラ各地に点在し、増え続ける路上の子どもたちに対応すべく、再び路上教育の活動を強化していくことにしました。路上教育に参加する子どもの中で、希望者は、アイキャンの児童養護施設「子どもの家」で生活することもできます。

この日活動を行った墓地では、本来居住は禁止されています。しかし、他に住む場所がないために、多くの子どもたちが、ここに住んでいるのが実情です。衛生環境も劣悪で、子どもたちはごみが散乱した地面の上を裸足で走り回り、怪我をすることもあります。犯罪や薬物使用者も多く、子どもたちは危険と隣り合わせの生活を送っています。残念ながら、このような地域は、マニラ各地にあるのです。



子どもたちを取り巻く課題は多く、根深く、解決までの道のりがとても長く感じてしまうのも正直なところ。だからこそ、こうした複雑に絡み合った子どもを取り巻く課題を、そこに暮らす子どもたちとともに、一つ一つ解決していく路上での活動が必要なのだと思います。今後、アイキャンの路上教育は、地域を拡大して実施していきます。子どもたちが少しでも安心した生活が送れるよう、アイキャンの挑戦は続きます。

### ある日のスケジュール

- 09:00 子どもの家  
訪問報告書作成
- 11:00 フェアトレード  
の支出申請作成
- 13:00 パヤタス訪問
- 16:00 子どもの家での  
活動の準備
- 18:00 帰宅

## フィリピン事業 (マニラ・路上) 4月16日/サンマテオ(フィリピン) 児童養護施設「子どもの家」の2階完成



今月、長年の夢であったアイキャンの児童養護施設「子どもの家」の2階の増築が終了しました。2階にはシャワールームやベッドルームが併設され、この増築により 30 名以上の身寄りのない子どもたちの受け入れが可能になりました。

入所中の子どもたちからは「建物が広がって嬉しい。一緒に住む子どもたちが増えてもっと賑やかな場所になってほしい」等、喜ぶ声を聞くことができました。

### ボランティア活動推進事業

4月20日/愛知

#### チーム一丸となった募金活動



高校生を中心とする 23 名のボランティアがマニラの路上の子どもたちを応援する街頭募金に参加しました。「みんなが大きな声で頑張っていたので自分も頑張れた。」「ピラ配りがうまくなかった時に、ボラン

ティアの先輩が助けてくれた」等、お互い助け合い、すべてのボランティアが「道行く人へ現状を伝えたい、振り向いてほしい!」という熱い気持ちを持って取り組むことができました。

## ジブチ事業

4月18・22・23日/ジブチ

### 難民の子ども 60 名が子ども議会に参加



ジブチ国内マルカジ、ホルホル、アリアデの 3 つの難民キャンプで「子ども議会」を開催しました。各 20 名の子どもが参加し、学校教育において十分な教材がない事や、学校の衛生環境の問題などが課題としてあげられました。子ども議会では身近な議

題について意見を交わす事でライフスキルの向上を目指しています。参加者は「学校の課題を考える事で、自分にも良い教育を受ける権利があると知る事ができた」と感想を述べました。

### ボランティア活動推進事業

4月23日/愛知

#### 文化祭やイベントに向け、商品入荷



4月23日、マニラから日本事務局へフェアトレード商品が納品されました。ICAN の事業地であるマニラのパヤタスゴミ処分場周辺地域のお母さんたちが心を込めて作ったアイキャンのフェアトレード商品は、機械では決して作れない温かみがあります。

商品を毎年取り扱って下さっている企業様や教育機関からは、今年もぜひ販売したいとご連絡を頂いており、生産者も多くの方々のお手元に商品が届く事をとても楽しみにしています。